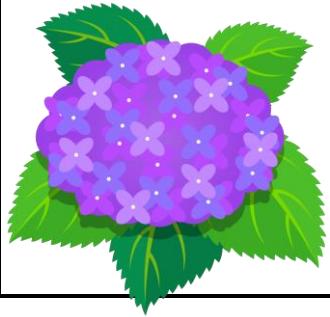


友生小だより

いがしりつものしょうがっこう がっこう がっこう ねん がつふつか
伊賀市立友生小学校 学校だより No.6 2025年7月2日



～だれもが自分らしく生きるために～



自分自身に課題を引き寄せ 考えていました。

5月30日(金)、「みえのパラスポーツ」代表理事
佐野恒祐さんにお越し頂き、5年生・6年生がお
話を聞かせていただきました。

「多様な性について考え方」を切り口にして、
「正しい知識をえる」「その人の思いを知る」「自分
を見つめる」といったテーマについてお話をしてい
ただきました。子どもたちは、これまで知らなかつた正
しい知識を習得するだけでなく、自分たちの教室や

～子どもたちの感想より～

○「安心できるクラスになるために、まずみんなと話すことだと思いました。」

○「私は一人ひとりが安心してすごせるようなクラスにするために、人の話をしっかりと聞くことを意識して
過ごしたいと思いました。理由は、自分も話を聞いて貰えなかったら不安になるからです。」

○「安心できるクラスにするために相手のことを知ろうと思いました。そのために相手の苦手なところを聞
いて助けようと思いました。」

○佐野さんの話を聞いて、お姉ちゃんに謝って、私は「とても悪いことをしたなって、これからは絶対に
あんなことを言わないし、見た目で判断したらだめだと思いました。」

○「もし自分のクラスにLGBTQの人人がいたら、その人が自分らしく居られる場所をクラスのみんなで作り
たいです。」

○「周りの目を気にして苦しんで生きている人たちを少なくしよう。かわいそうではなく周りの対応が大切
だと考えました。」

○「まわりにいる人はこのクラスで本当に安心できているか、無理をしていないか。自分の意思を押しつ
けていないか、考えるきっかけになりました。」

3年生が市民センター見学に行きました。

3年生は、校外学習として5月19日(月)に友生

地区市民センターを訪問、そして6月12日(木)には、

ゆめが丘地区市民センターを訪問させて頂きました。

市民センターでは、文化活動や福祉など、生活に欠か

すことのできない様々な活動について説明を聞き、セン

ター長さんから「地域をよくしたい」「地域の人たちの

助けになりたい」という思いを聞かせていただきました。

その後、実際に館内のさまざまな部屋を見学して、そこ

での活動の様子を教えて頂いたり、事務室では、たくさんの行事が地域で行われていることを学んだ

りしました。さらに、防災倉庫を見学し、防災拠点としての役割についても学習するなど、地域の生活や

安全を幅広く支える市民センターの活動について学ぶことができました。



見て、聞いて、触って学び、自分の生活を考える。

6月13日(金)、4年生が社会科の学習で上野

清掃社の方に来て頂き、収集作業の方法や仕事の

内容などについて学びました。毎年子どもたちが楽

しみにしている学習で、実際に運転席に乗せて貰った

り、作業行程を聞きながら機械を可動させて貰ったり、

作業事故や怪我を防ぐための最新のシステムを学ん

だりと、楽しみながら仕事の仕組みを学習しました。

「子どもたちに少しでも環境のことを考えてほしい。」

と丁寧にお話してくださる説明を、子どもたちは、うなずきながら真剣な表情で聞きいていました。

～子どもたちの感想より～

○「ぼくは、習ったことを生活にどんどん使っていきます。例えば先がとんがっている物の捨て方などを

使っていきます。」

○「私はお母さんやお父さんにも『こういうことは気をつけるんだよ』と声をかけたり、工夫をしたりしていきます。」

○「私はゴミのことに気をつけていなくて、話を聞いて気をつけたいなと思いました。町がきれいなのは



当たり前だと思っていたけど、当たり前ではないことを知ることが出来ました。ポイ捨てをしない町になつてほしいと思いました。」

「みんなは、あまり目立たなくていい仕事だと言っていたけど、私はとてもありがたい存在だと思いました。いろいろな話を聞いていて、私は出来る範囲で、串の端を折ったりスプレー缶に穴を開けるなどの事を、気をつけていきたいと思いました。」

プール水泳が始まりました

6月23日(月)、プール開きをおこないました。

この時期になると、曇り空や、逆に気温の高くなりそうな日などプール水泳実施が危ぶまれる日には、まず朝の登校の際に「プールできる?」「大丈夫?」と「おはよう」より先に質問が飛んできます。そして朝の会が始まってしばらくすると、いくつかの教室から「やったー!」と大きな歓声が聞こえてきます。プール水泳が実施できなかった数年前と比べ、今のありがたさを感じずにはいられません。



学校のプール水泳では、何よりも安全を最優先させて準備、点検作業、指導、判断、危機対応等を行いますが、安全にはその日の体調も大きく影響します。学年にもよりますが、子どもたちは自分の体の調子や加減を判断するのが、まだまだ苦手です。もちろん学校でも確認していますが、プール水泳の日には、朝、必ず保護者の方がご確認いただき、判断の上、水泳カードに押印してください。規則正しい生活や十分な睡眠なども含め、安全な水泳指導の実施のために、ご協力をお願いします。

～安心と信頼をつくるための～

6年生は、6月24日(火)、人権学習で「ヒューリアみえ」の松村元樹さんに、お話を聞かせて頂きました。

松村さんからは、まず、考えるためのヒントをもらいました。「大切なのは答え合わせ」「自分をどれくらい出せていますか?」「自分でない自分」「自分を通して相手に意識を向ける」「安心と信頼をつくるためのアクション」といったキーワードについて、ご自身の話や、具体的な例を基に、子どもたちに投げかけてくださいました。これらのヒントに共通しているのは、人との関わり、自分に指を向け振り返ること、そして誰もが自分らしく生きるための視点です。

そして、「自分を安心して出せる、話せるクラスになつてほしい。これから自分はどうしていきたいのかを考えてほしい。」と話してくれました。

子どもたちは、松村さんのお話に重ねながら、自分の体験や思いについて考えました。

以下は、授業の後に子どもたちが書いた感想の一部です。



～授業後の子どもたちの感想から～

- 「お話を聞いて、大切にしていきたいなと思った一つ目は『大切なのは答え合わせ』です。相手の気持ちを想像するのはとても大切だけど、それが相手の思っていることと、どんな時でも同じかというと、そうでもないです。だから、自分の想像したことを相手に伝えて『こういうふうに想像したけど、あってる?』と聞くことが大切です。もう一つは善意や思いやりで相手とそれ違うきっかけは『思い込み』や『決めつけ』です。思い込みや決めつけをなくすために、「見た目で判断しない」など自分なりに考えて対処できたらいいなと思います。」
- 「私は思い込みをしてしまっていることがあるので、無くしていこうと思いました。男の子だからこれ、女の子だからこれ、と決めつけてしまうと夢を諦めてしまう子もいるので、相手の意見を壊さずに尊重することが大切だとわかりました。それと『差別やいじめは、たいてい悪意のない人がやってしまう』とわかったので、自分の行動、発言を振り返ってみようと思いました。」
- 「私は『クラスの平均にいないと得られない安全感と、周りからの見られ方を常に意識してしまうこと』を、気をつけたいなと思いました。」
- 「お話を聞いて、『多数派だからって何でも合っているわけでもない。少数派もいてもよい。いろんな考え方があるからおもしろい。』そう思うようになったので、これからは多数派にもなり少數派にもなり自分の意見や意思はしっかり持とうと思いました。」
- 「自分はピンクシャツデーなどの時に、相手の気持ちを想像すると書いていたけど、想像するだけではなく、知ることも大切だということを知った。」
- 「悪口を言わない。『他人より自分を変える。』これから自分は悪口を言わない。」

